



JKSK Now!

(2015年5月20日)

1. JKSK 結結プロジェクト

(1) 東京新聞とJKSKのコラボレーションによる連載「東北復興日記」

2012年8月から始まったこの連載も5月15日で第138回になります。(東京新聞朝刊4面・金曜日掲載)

第135回「地域支える基盤は農業」(4月17日) いわきおてんとSUN 松本幸子さん

第136回「体験発信し未来に貢献」(4月24日) せんだいプロジェクトチーム 眞野美加さん

第137回「高校生の挑戦 反響呼ぶ」(5月8日) 宮城野高校3年 佐藤望叶さん

第138回「町民憩いの場 再開」(5月15日) いわきおてんとSUN 吉田恵美子さん

また、2014年10月からジャパン・フォー・サステナビリティの協力を得て、毎月1回海外配信も行われています。5月は「Giant Coastal Levees— Let's Talk」が掲載されました。

(2) 広野町応援プロジェクト

JKSKでは2013年からボランティアバスを運行し、広野町のオーガニックコットン畑を応援してきました。2015年は広野町でいわきおてんとSUN企業組合が建設する太陽光発電所、綿の栽培、町内に完成する防災緑地での植樹や、車座の開催を通じ、広野町への町民の帰還が促進されるよう、女性や子供が安心して暮らせる地域を取り戻せるよう支援活動に取り組みます。

第1回 ボランティアバス 6/13日(土) 綿の定植(ほぼ定員)、9/12草取り、11/22収穫

第8回 車座 7月10(金)～11日(土) 福島県広野町

2. AUW(アジア女子大学)–JKSK 連携プログラム

2009年9月から、「アジア地域の安定には、能力のある女性達に高等教育を」という国際社会のコンサスに基づき開校したアジア女子大学(Chittagong, Bangladesh)と日本で初めて連携したプログラムをスタートさせました。

本プロジェクトを推進するために、「JKSK-Women Empowerment 基金≪JKSK=WE 基金≫」を設立、「自分以外の誰かのために」「アジアの一員として」という思いの中で「One Coin/Every Day 運動」を開始。以来、JKSK 会員、JKSK サロン参加者、JKSK 関係者などがご参加下さり、その姿勢を多とされた多くの個人、団体、企業の方々からご支援、ご協力を得て今日まで活動を続けてきました。

(1) 5か国5人の学生(JKSK 奨学生)の教育支援

(2) 定期的な communication の実施



(3) JKSK 奨学生の日本招聘 (インターン・訓練)

(4) AUW と JKSK の交流事業 (JKSK 関係者の AUW (Chittagong, Bangladesh) 訪問等)

第 I 期 JKSK 奨学生 (Bangladesh, China, Nepal, Sri Lanka, Vietnam) (2009～2014)

第 II 期 JKSK 奨学生 (Bangladesh, Buhtan, India, Nepal, Pakistan) (2014～2019)

JKSK 関係者が AUW (Chittagong, Bangladesh) を訪問しました。(2015, 2, 27～3, 3)

※本交流事業は東芝国際交流基金からの助成金をいただいています。

3. 「こんな生き方～女性100名山 プロジェクト」

第3回原稿リリース(2015年4月8日)

水本江理子さん 自分のキャリアは自分で作れる～女子事務系総合職第1期生からのキャリア転換

上山良子さん いつでも Re-Born!: デザイナーへの道(連載—2)

渡邊智恵子さん オーガニックコットンと東北大震災

木全ミツさん The Body Shop Japan の社長就任まで(連載—3)

4. 第13回 JKSK 総会 2015年5月26日に開催

以上